

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添

なし

応募概要	分野	演劇	種目	人形劇
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	無	応募総企画数	
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※			

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	こうえきざいだんほうじんげんだい(こんぎょうげきせんたー)		
	制作団体名	公益財団法人現代人形劇センター		
	代表者職・氏名	理事長 築瀬恵子		団体ウェブサイトURL
				http://www.puppet.or.jp/
	制作団体所在地	〒 211-0035	最寄駅(バス停)	井田営業所
		神奈川県川崎市中原区井田3-10-31		
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな			
	公演団体名	デフ・パペットシアター・ひとみ		
	代表者職・氏名	代表 榎本トオル		団体ウェブサイトURL
				http://deaf.puppet.or.jp/
	公演団体所在地	〒 211-0035	最寄駅(バス停)	井田営業所
		神奈川県川崎市中原区井田3-10-31		
	制作団体 設立年月	1969年4月		
	制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
		代表理事:築瀬恵子 業務執行理事:塚田千恵美	理事:7名/評議員:7名/監事:1名 職員:9名	
	事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者 を置く	本事業担当者名	謝 曼妮
	経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	菅原 真弓
	本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号
		xiemannni0987@gmail.com		0447772228

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	1969年 4 月 文部省より財団法人設立認可、乙女文楽、和泉流狂言の稽古を開始 1970年 全国のからくり人形の本格調査開始 1973年 海外人形劇団招聘事業開始 1974年 出版事業開始 1975年 全国の伝統人形芝居の本格的調査開始、ヨーロッパ人形劇の実情調査開始 1978年 アジア人形劇の実情調査開始 1979年 国際児童年記念「人形劇カーニバル飯田」を提唱、事務局を担当 1980年 ろう者と聴者との協同による人形劇団デフ・パペットシアター・ひとみ 設立 1983年 デフ・パペットシアター・ひとみ初海外公演(チェコ)、国際デフ・パントマイム・フェスティバル審査員特別賞受賞 2011年 4 月 公益財団法人へ移行	
	学校等における公演実績	2011年度 12 校で公演、ワークショップ 2012年度 11 校で公演、ワークショップ 2013年度 25 校で公演、ワークショップ 2014年度 20 校で公演、ワークショップ 2015年度 20 校で公演、ワークショップ 2016年度 17 校で公演、ワークショップ 2017年度 19 校で公演、ワークショップ 2018年度 24 校で公演、ワークショップ 2019年度 16 校で公演、ワークショップ 2020年度 8 校で公演、ワークショップ 2021年度 11 校で公演、ワークショップ 2022年度 12 校で公演、ワークショップ 2023年度 14校で公演、ワークショップ 2024年度 11校で公演、10校でワークショップ	
	特別支援学校等における公演実績	2011年度 28 校で公演、ワークショップ 2012年度 15 校で公演、ワークショップ 2013年度 3 校で公演、ワークショップ 2014年度 6 校で公演、ワークショップ 2015年度 14 校で公演、ワークショップ 2016年度 4 校で公演、ワークショップ 2017年度 16 校で公演、ワークショップ 2018年度 15 校で公演、ワークショップ 2019年度 13 校で公演、ワークショップ 2020年度 (5校 感染症予防対策によりワークショップ中止) 2021年度 3 校で公演、2 校でワークショップ(4校感染症予防対策により中止) 2022年度 7 校で公演、12 校でワークショップ 2023年度 8 校で公演、ワークショップ 2024年度 10校で公演、ワークショップ 2025年度 5校で公演、10校でワークショップ ＊ろう学校またはろう者の児童が中心の支援学校を含みます。	

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	https://www.youtube.com/watch?v=xmj62D-12PU	
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:	
		PW:	

別添

なし

【公演団体名 デフ・パペットシアター・ひとみ 】

本公演・ワークショップの内容

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	ろう者と聴者が共につくる 人形劇『河の童ーかわのわっぱー』			
企画のねらい	デフ・パペットシアター・ひとみは、ろう者と聴者が一緒に人形劇を創作・上演しています。 ろう者・聴者の劇団員がそれぞれの感性を生かした、セリフを最小限にした視覚的な演出が特徴です。 音声言語に頼らない、ろう者の参加する芸術作品に触れることで、子供たちの想像力を刺激するとともに、他者理解を深める機会となることを期待します。			
演目概要・演目選択理由	演目概要:みんなそれぞれ、見えている世界は、バラバラだ—— 村はずれの井戸に棲む一匹の河童と村の人々との物語。 2018年初演の本作は、ろう者と聴者がともに作るデフ・パペットシアター・ひとみが、劇団創立以来常に向き合ってきた「共生」をテーマに描いた作品。河童と人間のドラマを通じ、自分ではない誰かと共に生きていくことに思いを寄せられた作品です。 演目選択理由:申請作品『河の童ーかわのわっぱー』は、セリフを最小限にした、身体・人形による視覚的な演出を多く取り入れた作品で、幅広い年齢の子供に見てもらおうことのできる作品です。			
児童・生徒の参加または体験の形態	公演の前に新聞紙等を使ったワークショップを行います。 演目『河の童』の劇中に、たくさんの「あやかし」が紹介されるシーンがあります。ワークショップでは、子どもたちがグループに分かれて、新聞紙など身近な素材を使って「あやかし」を創作し、音声によるセリフを使わずに表現することに挑戦します。 本公演の一場面で、創作した「あやかし」を発表してもらいます。			
児童・生徒の参加可能人数	本公演		参加・体験人数目安	30人程度
			鑑賞人数目安	250人まで
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	人形劇『河の童ーかわのわっぱー』 原作:火野葦平『河童曼陀羅』(国書刊行会) 脚本・演出:立山ひろみ 人形美術:本川東洋子 舞台美術:大島広子 作曲・音楽:佐藤望 舞台監督:鈴木文 照明:後藤義夫			
	公演時間	80	分	
出演者	デフ・パペットシアター・ひとみ 榎本トオル、鈴木文、やなせけいこ 他3名			
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	脚本・演出:立山ひろみ/劇作家、演出家。宮崎県立芸術劇場演劇ディレクター。パフォーマンス演劇ユニット「ニグリノード」主宰。 出演:榎本トオル/デフ・パペットシアター・ひとみ代表。ろう者。1991年に入団し、同年『さくらものがたり』でデビュー。NHKドラマ『デフ・ヴォイス』出演等、他ドラマ・舞台への出演多数。			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む	出演者:		6	名
	スタッフ:		2	名
	合 計:		8	名
		運搬	積載量:	3 t
			車 長:	6 m
			台 数:	1 台

本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュー ル)の目安	前日仕込		有	前日仕込所要時間		4	時間程度						
	到着	仕込		上演	内休憩	撤去	退出						
	8:00	8:00		13:30～14:50	0:00	14:50～17:00	17時00分						
	※本公演時間の目安は、概ね2時間分程度です。												
本公演 実施可能日数 目安 ※実施可能時期につ いては、採択決定後 に再度確認します(大 幅な変更は認められ ません)。	6月		7月		8月		9月						
							20日						
	10月		11月		12月		1月						
	22日		10日		10日								
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計		62日						
公演に係るビジュ アルイメージ (舞台の規模や演出 がわかる写真)	持ち込みベンチ無し		持ち込みベンチあり										
													
	体育館フロアに舞台を 設置します。 舞台設置に必要な面積 幅12m×奥行6m 高さ3.6m以上												
※会場条件につ いて最低限必要 な条件がある場 合には、様式 No.4内「会場簡 易図面」を記載し	あらすじ 河童は、のんびり、平和にくらしています。井戸は自分の井戸で、鯉やゲンゴロウ、蟹なんかと一緒に、ゆったりゆらゆら。水はキラキラ輝いていて、世界は、そこにすべてがあります。足りないものなんてどこにもなくて。にんげんに会うと、攻撃されたりするので、なるべく会わないようにしています。でもにんげんの小さいの、こどもと遊ぶのは大好きなので、たまに相手をしてやります。 村に雨が降らなくなったある時、突然にんげんたちは、それを河童のたたきだと考えて・・・。 河童とこどもたち、そしてある少女との交流、おとなになったにんげん達と河童をめぐる物語。												
													
著作権、上演権等 の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続の要否		該当なし		該当コンテンツ名								
	該当事項がある場合	権利者名			許諾確認状況	内部保有							

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

なし

【公演団体名 デフ・パペットシアター・ひとみ 】

ワークショップのねらい

ワークショップでは、児童達に物語の世界観を共有し、実際に演じてもらいます。
 その上で公演を鑑賞することで、作品世界へ入り込みやすくなる効果を狙います。
 また、言葉を使わず表現をする方法を遊びを通して体験することで、子供たちの表現の幅を広げることを目的とします。グループで創作することで、他者と協力することで新しい発想や表現が生まれることの喜びを得ることを期待します。
 また、デフ・パペットシアター・ひとみはろう者と聴者が一緒に活動をしている劇団であるため、異なる言語・文化を持つ者同士がどのようにコミュニケーションをとるのかを学び、社会の多様性や共感性を学ぶきっかけとなります。

児童・生徒の参加可能人数

ワークショップ

参加人数目安

30人程度

ワークショップ実施形態及び内容

標準:90分 ※公演当日にもリハーサルを実施します。

① アイスブレイク

講師による、身体や頭をやわらかくするゲーム形式のワークショップ。
 ゲームを通し、ろう者とのコミュニケーションにおいて大切なこと＝視覚的に伝える ということを体験します。

② 講師によるデモンストレーション

本ワークショップでは、新聞等を使用して自由な形を作った人形を作ります。
 プロの人形劇俳優による、新聞紙などのモノが、「あやかし」となり、まるで生きているかのように動かす実演をします。

③ グループに分かれて創作

複数のグループに分かれて、新聞紙等を素材に、自由な発想で「あやかし」を創作します。創作過程で偶然に生まれた形や動きも取り入れていけば、思いもよらない「あやかし」が生まれます。
 各自がつくった「あやかし」が、どう動くのか。どこに生息していて、何を食べて、など、講師とコミュニケーションを取りながらイメージを広げ実際に動かしてみます。音声言語に頼らない人形劇の表現に挑戦します。

<休憩 5～10分>

④ 子どもたちの発表

創作した「あやかし」を、それぞれグループごとに発表します。子供たちも他グループと発表を見せあうことで、発想を共有したり、自分で表現することに自信を持つことを期待します。子供たちの表現したいことをより効果的に舞台で発表するためにはどうすればいいのか、講師からのアドバイスをを行います。

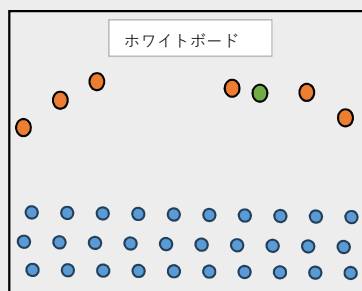
⑤ 劇中で動かす練習

本公演中の一場面、子ども達にそれぞれ自作の「あやかし」を持って表現してもらいます。劇中で参加するタイミングなど説明し、実際に動いてみます。

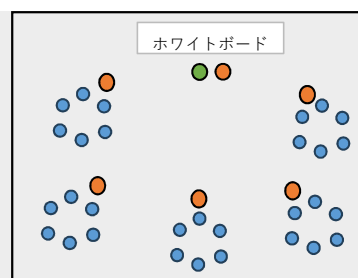


その他ワークショップに関する特記事項等

ワークショップの形態 ● …児童生徒 ○ …講師 ● …手話通訳※学校によって派遣します
 ワークショップ行程 ①・②・④・⑤のとき↓



ワークショップ行程 ③のとき↓



※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

一般区分・特別エリア区分共通
No.4(共通)

別添	なし
----	----

【公演団体名 デフ・パペットシアター・ひとみ 】

記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。

- ・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
- ・搬入車両が構内に入らず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
- ・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。

上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。

任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。

詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。

なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件

(必須)	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。						
会場の設置階の制限		2F以上応相談		主幹引き込み電源容量		20 A以上	
舞台設置面積	間口	12 m		奥行	6 m		
	高さ	3.6 m					
舞台設置場所	フロア対応	可		学校のステージでの対応		条件が合えば可	
搬入間口の広さ	幅	1.5 m		高さ	2 m		
遮光の要否	7割程度必要		緞帳の要否			不要	
ピアノの使用について	使用しない		ピアノを使用する場合の設置位置の指定			条件なし	
			ピアノを使用しない場合の移動の要否			要	
搬入車両(トラック等)の横づけ	応相談		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離			10 m以内	
搬入車両の種類	中型トラック		台数	1 台			
搬入車両の大きさ	車幅	2.3 m		車長	6 m		
備考	・移動用にハイエース1台を追加で使用する場合があります。 ・分電盤から電源を取らせていただくことがあります。						

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報

(任意)	学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。	
会場図面の提出要否	要	
その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)	可能であれば、搬入間口と搬入経路の写真をいただきたいです。	

時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合には、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ					
	ワークショップ					
	本公演	共演、参加又は体験対象となる児童・生徒	30分～45分	本公演当日の開演前	共演するにあたっての舞台上での動線確認とリハーサル	
	本公演					

個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。	
		個別ヒアリング事項	
	1		
	2		
	3		

(任意)

会場条件について最低限必由奈条件がある場合、簡易図面を記載してください。

※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。

会場簡易図面

体育館
舞台

舞台袖

体育館の舞台

舞台袖

設置舞台

6 m

12m

間口

1.8m

パネル

パネル

体育館
フロア

照明スタンド

照明スタンド

照明
操作

鑑賞位置

フロア使用時

別添

なし

【公演団体名 デフ・パペットシアター・ひとみ 】

【本事業を通じて実現したいこと】

1、文化芸術教育の充実

作品を通して児童の豊かな感受性を育みたいと考えます。現代は、SNSやAIの影響で情報が即時・効率的に処理される一方で、感情や想像力を深める時間が奪われがちです。だからこそ、芸術を“じっくり感じる”機会が必要と考えています。人形劇という視覚的アイデアにあふれた生の芸術を通して、子どもたちにとって貴重な文化体験の機会を実現したいです。

2、インクルーシブ教育・多様性理解の推進

平成29年度告示の小学校・中学校学習指導要領において小中学校の道徳・総合的な学習の時間における「多様性の尊重」「共生社会の理解」が尊重されています。知識だけでなく、鑑賞体験を通して「感じ、考え、行動できる」ことを実現したいです。

3、表現力・コミュニケーション能力の育成

言語以外の表現やコミュニケーションへの理解を育て、さらにワークショップを通した協働的な学び、自己表現の促進を実現したいです。

【上記の実現に向けて、実施の工夫】

1、文化芸術教育の充実

→デフ・パペットシアター・ひとみは1980年に結成された、ろう者と聴者が共に活動をするプロの人形劇団です。ろう者の持つ視覚的に豊かな表現力を取り入れ、新しい人形劇を作ることを目的としています。これまでの45年間の全国での公演活動をし、海外での公演も行うなど国内外で高く評価されている劇団です。
申請作品『河の童～かわのわっぱ～』は2018年の初演以来、全国の学校や会館で親しまれている作品です。

劇中ではほとんど台詞を使わず、一部台詞のある箇所では手話を併用します。
その他にも、プロジェクターによる投影や「めくり」の使用、舞踏やマイムのような身体表現、舞台上での生演奏など、目で見て楽しめる仕掛けをたくさん盛り込みました。
観賞をする児童は、セリフの無い演技に集中することで、「見る」「感じる」感覚が研ぎ澄まされます。感動や驚きを通して心に残る学びこそが、多様性を「自分ごと」として受け入れる第一歩になります。

2、インクルーシブ教育・多様性理解の推進

→多様性理解においてもっとも大事なことは、「自分とは違う他者の視点に立てるか」です。
デフ・パペットシアター・ひとみは、ろう者と聴者が共に活動する劇団です。
音声言語に頼らず、視覚的表現を中心にした人形劇の「話せなくても、伝わる」体験を通し、障害の有無に関わらず共に生きる社会の大切さを伝えます。
ろう者の俳優が舞台上に立っている姿から、「耳の聞こえないことはハンディではなく、個性のひとつ」と実感してもらい、多様な価値観への理解につなげます。

3、表現力・コミュニケーション能力の育成

児童のみなさんには作品を通し、身体表現・ジェスチャー・人形の動き・表情・間(ま)等の非言語的手段に触れてもらいます。セリフがなくても気持ちが伝わり、声がなくても豊かに表現できるという体験を通して、「伝えるとは何か」「受け取るとは何か」を、身体と心で感じるができます。

これにより、普段意識していない自分の表情・姿勢・目線・動きなどが「表現」になり得ることに気づき、非言語の表現力・受信力が自然に伸びていきます。言葉に

また、劇団では作品鑑賞だけでなく、ワークショップでの交流も重視しています。
ワークショップは、児童に作品の世界に入り込みやすくなるだけでなく発想力と想像力を養うきっかけにもなります。

「人形劇」や「聴覚障害」「手話」などの知識が、自分自身の体験として定着します。また、出演者がワークショップの講師となることで、児童とろう者のアーティストが直接交流をします。普通学校に通う児童にとっては普段ふれあう機会の少ないろう者との交流の機会となり、特別支援学校ではプロとして文化活動に携わるろう者を知ることができます。どちらの学校でも、児童が多様な生き方を知るきっかけとなり、将来に広いヴィジョンをもつことができます。

作品観賞とワークショップ、二つの面で普段とは違う体験をすることで児童達の心に残り、その後の人生をより良いものとしていく経験の一つになることを目指していきます。

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

本事業への応募理由等

事業を適切かつ
円滑に実施するための
工夫

【学校との連絡調整について】

デフ・パペットシアター・ひとみはより多くの人が楽しめるための人形劇を目指しています。これまで小学校・中学校・特別支援学校等の多くの学校での公演を経験しています。今回の事業においてもその経験を活かし、学校と連携して適切な対応を取っていきます。例えば特別支援学校では児童に対するサポートについて適切な対応をとるため、その学校との事前の打合わせは念入りに行います。通常学級でも、ワークショップの際にそれぞれの学校の担当先生と打合わせをしてその学校や観賞児童にあった対応をするよう心がけます。

【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

公演の際には通常の体育館のステージでは作品の舞台としては小さいことが想定されます。そのためステージではなく下のフロアに舞台を作ることになると考えています。その場合、客席と舞台が平面になってしまい、舞台見られない児童や見にくい児童が出ることを防ぐため、こちらで3種類のベンチを100人分前後持ち込むことで観賞する児童全てが見やすくなる環境を整えます。出演者やワークショップの講師にはろう者と聴者がいます。ろう者のコミュニケーションには手話に長けた劇団員の聴者が手話通訳をして行うことができます。手話以外にも筆記やホワイトボードを使つてのコミュニケーションなど、児童や先生とのやりとりがスムーズに行えるようにします。学校によっては、手話通訳者も1名参加します。

【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

上演の際に配布するパンフレットには、作品に関連する手話などをイラスト付きで掲載しています。上演をきっかけに、全校生徒が手話に継続的にふれてもらうきっかけづくりとなっています。また、ワークショップを体験する児童には事前学習資料として「ろう者とのコミュニケーション方法」を紹介するプリントを共有します。簡単な手話やコミュニケーション方法を知ってもらった上で、ワークショップや本公演で実際にろう者と交流することで、児童にとっての多様性の理解やコミュニケーションへの自信につながります。